

## 都立小川高等学校(全日制課程)

【校長】 山田 智美  
【生徒数】 940名  
【学級数】 24学級



### 【実態・目標】

- ストレスへの対処に弱く、他者の問題を優先し、自身で抱え込んでしまう傾向にあるため、不調に陥る生徒が複数名見受けられている。
- 婦人科系(月経不順等)の悩み、性的な悩みをもつ生徒が増えている。性に関する知識の不足により、DV等の問題に巻き込まれて自分を傷つける傾向がある。⇒他者との対等な関係、心地よい関係づくりについて知ることで、今後の生活で適切な行動選択ができるようにする。

#### 目標

「プレコンセプションケア」と「良好な人間関係」を学ぶことで、心身の健康への意識を高め、保持増進できるような行動変容につなげることで資質能力の育成

### 【課題・改善】

- 【今後の取組】
- 各学年の課題を把握しながら、可能であれば1学年・2学年ごとに、発達段階や環境の変化に応じた講義を継続して実施したい。
  - 保健体育科、公民科、家庭科などでの学習指導要領に基づく知識の定着と、探究や学校行事等による教科横断的な学習を生徒の実態を共有しながら実施する。学校全体で、生徒が将来、自ら行動変容できるような健康教育の充実を図っていく。

### 【取組】

- 産婦人科医を招へいた公開授業の実施  
「プレコンセプションケア」と「良好な人間関係」について、保健『第3单元「性意識と性行動の選択」及び「妊娠・出産と健康」』で学習する知識を踏まえ、産婦人科医による授業を実施する。個人ワークやグループワークにより、生徒が「自分事」として正しく行動選択ができるようになることを目的に、2学年全生徒を対象として行う。
- 教員の指導力向上  
・第53回全国性教育研究大会(7/25,7/26)  
・令和7年度全国養護教諭連絡協議会第31回研究協議会(2/13)

### 【成果】

- 生徒の意識に関する成果  
生徒の事後アンケートより:「自分の心と体や相手のことを思いやることの大切さを改めて認識した。」「将来のためになる知識を学べた。男女で生理の話共有できてつらさを理解しあうことができた。」等
- 生徒の態度に関する成果  
講演後すぐ、保健室において、男子生徒が女子生徒を思いやろうとする態度が見受けられた。

### 【取組(詳細)】

#### ○産婦人科医を招へいた公開授業の実施

<実施日・場所・講師>

- ・令和7年12月11日(木)
- ・対象学年:2学年8クラス男女 計308人
- ・場所:体育館
- ・講師:産婦人科医

<授業内容>

「プレコンセプションケア」と「良好な人間関係」について、既習の知識を踏まえ、専門家による授業を実施した。授業の目的は、個人ワークやグループワークによる発表などを通じて、生徒が学習内容を「自分事」としてとらえ、正しい行動選択に繋げることとした。講師の先生には、パワーポイント、ワークシートを使用して、科学的根拠に基づいた授業を実施していただいた。

<生徒の様子>

- ワークシートに記入しながら真剣に授業に取り組んでいた。
- 周りの生徒とグループワークを通じ、共有して理解を深めていた。
- 講演終了後、事後アンケートに回答し、授業の振り返りをした。



個人ワーク・グループワークにおいて「人生設計」を自分で考え、健康問題の対処を考えている様子



「プレコンセプションケア」と「良好な人間関係」をテーマに実施。保健で既習した内容やデータによる資料を踏まえ、説得力ある講演となった。

#### ○教員の指導力向上のために全国養護教諭連絡協議会参加

<内容>

令和8年2月13日に全国小中高養護教諭代表者の3名の発表と国際統合睡眠医科学研究機構主催の柳沢正史氏による講演会「睡眠の謎に挑む健やかな睡眠から始まるウェルネス」に参加した。睡眠や月経指導など健康教育の実施について参考になる実践や取組を多く学んだ。(参加者:養護教諭)